# 告　辞

本日、東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程を修了し、晴れて博士号を授与される皆さん、おめでとうございます。本学教職員を代表し、心よりお祝い申し上げます。

本年は、生物生産科学専攻 13 名、応用生命科学専攻４名、環境資源共生科学専攻９名、農業環境工学専攻７名、農林共生社会科学専攻６名、論文博士 10 名、計 49 名の皆さんが、この学び舎から巣立っていくこととなりました。これまで、皆さんは様々な経験をされたと思います。学部課程、そして修士課程または専門職学位課程を終えて、更に深く険しい研究の道に足を踏み入れたわけですから、楽しいばかりでなく、挫折や困難を乗り越え研鑽と努力を重ねる厳しい日々でもあったに違いありません。今、皆さんの胸中にあるものは、きっと心地よい達成感、そして未来への期待でしょう。しかしここで今一度、皆さんが学業に励んできた間皆さんを支えてくださったご家族、ご友人、関係者の方々に対する感謝の気持ちを思い起こしてください。皆さんが今日この日を迎えられたのはこうした方々の有形無形の支えがあったからこそです。我々教職員一同もその暖かいご支援に謝意と敬意を表しつつ、新たな世界へ羽ばたいていく皆さんの活躍を期待して送り出したいと思います。

皆さんが選んだ道、科学技術研究は、人類の未来に大きな役割を果たすものです。折に触れ申し上げてきたことですが、現在地球は様々な難問を抱えています。環境問題・資源及びエネルギー問題・人口及び食糧問題、全て地球上の生物の存続に係わる危機的課題であり、これらを解決し、平和的・健康的に持続発展可能な社会を創るためには、科学技術の力が必要です。本学は使命志向型教育研究をモットーに、美しい未来づくりに貢献する実践的な科学技術の創出とそれを担う人材育成に力を注いでまいりました。殊に農学は、環境・資源・食糧のいずれの側面から見ても人類の健康的な存続に最も直接的に係わる分野であり、この連合農学研究科は、茨城大学及び宇都宮大学と大学の枠組みを超えて連携し、各々の研究の特性を活かし、また補いつつ、更に洗練されたより有用な最前線の農学研究へと発展させるために創設されたものです。皆さんはこの特色ある大学院で鍛えられ、それぞれの専門分野においてグローバルな視点で先陣を切って活躍する人材となるための基礎を身に付けました。まずはそのことに自信を持ってください。そしてここで得た知識・技術･経験をもとに、これから更に自己研鑽を重ね、博士号を取得した者として国内のみな

らず国際社会においても大きな役割を果たす責任と期待をその双肩に背負うよう求められているということをしっかりと自覚してほしいと思います。どのような進路に進んでも同じことです。今後、皆さんの行く手にはさらに多くの試練があることでしょう。逆境の中で進むべき方向を見失うようなこともあるかもしれません。しかし、このことだけは忘れないでいただきたい。科学技術は、単に技術のための技術であってはなりません。何かを創り上げる時、それを完成させることが目的なのではなく、それがどのように他者に、社会全体に、地球環境に、益するかが最も重要なことです。社会への貢献、人類の未来への貢献こそが科学技術の真の目的でなければならないのです。どんな時も、この真の目的と自分の使命、真理の追究に対する情熱を忘れずに前へ進み続け、後進の範となり、我々科学者の仲間として共により良い未来を創るために全力を尽くして欲しいと願っています。

最後になりましたが、有名なアインシュタインの言葉を皆さんに贈り、餞とさせていただきたいと思います。

″Try not to become a man of success, but rather a man of value.″

どうか皆さん、成功ばかりを追い求めるのではなく、” a man of value”、社会に益する、真に価値のある人間になるよう、それぞれの夢に向かって邁進してください。次に皆さんにお会いする時には、さらに成長した頼もしい姿を見ることができると信じ、楽しみにしています。そして本学もまた、皆さんの心強い基柱となり母校として誇りに思ってもらえるよう、より良い大学づくりに柔軟且つ積極的に挑戦してまいります。

皆さんのご健闘・ご活躍を心よりお祈りいたしております。

平成 25 年 3 月 15 日

国立大学法人東京農工大学長　松永　是